

令和4年度 5月 人権一口講座



「家族の世話をする子ども」って

小学生を対象として厚生労働省が「ヤングケアラー」に関する調査を行いこの4月に調査結果を公表した。

児童(小1〜小6)が大人に代わって日常的に家事や家族の世話をする「ヤングケアラー」に関してここ数年関心が高く、問題視され始めていた。

厚生労働省の調査結果から明らかになった数字は、小学6年生の6.5%(約十五人に一人)が「世話をしている家族がいる」と回答していた。その主な対象としては、「きょうだい」が71%と最も多く、そのきょうだいの内訳としては「おさないきょうだい」の世話が73.9%と最も多かった。それ以外では「障がい」や「病気」のため世話をしているとの答えがあったという。世話をしている家族として「きょうだい」が最も多く、続いて「母」「父」「祖母」「祖父」が挙がっていた。その世話の内容としては「見守り」40.4%、「家事」(食事の準備や掃除・洗濯)35.2%、「きょうだいの世話や送迎」28.5%の数字が出た。「入浴やトイレの世話」をしている数字は、18.9%であった。幼いながら家族のために身を尽くしている子ども们的状況が分かった。

(厚生労働省調査:全国から抽出した小学校350校に実施9759人回答 令和4年1月実施)

そこから気になったことがある。世話をしている家族がいると答えた人の中で健康状態が「よくない・あまりよくない」4.6%、学校の遅刻や早退を「たまにする・よくする」22.9%と、世話をしていない人よりも2倍前後高い結果を示した。小さい身体で無理を重ね我慢している状況にある場合は、学校生活に影響も出てくるのではないだろうか。

小学6年生の子が誕生日を迎えれば12歳となる。背は伸びていても身体は大きくなっていても、まだ「子ども」である。子どもはこの先の社会を支える大切な「宝」なのである。その子どもらを「大切」にし成長を「見守り・支える」ことこそ、社会の務めであろうと思うのです。皆さんはごう思いますか。

(令和4年度広報誌かけはし5月号人権一口講座より)



短いメッセージ

ごめんなさいが
あしたはもっと

いえたなら
なかよくなれるよ

熊本市・熊本市教育委員会・熊本市人権啓発市民協議会のカレンダー - 詠麻東小学校1年 おくむらときやさん(令和3年度の作品より)